

2025年4月21日

産業別四半期見通し調査結果 (2025年4～6月期見通し)

■長野県産業天気図

◇2025年1～3月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が8業種、「小雨(低調)」が3業種となった。

◇2025年4～6月期の見通し

- 見通しは、「薄日(順調)」が1業種、「曇り(普通)」が8業種、「小雨(低調)」が3業種となった。方向感では、「横ばい」が12業種となっている。

天気図記号	2024年 10～12月期現況	2025年 1～3月期現況	2025年 4～6月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	1 業種	1 業種	1 業種
 曇り(普通)	8 業種	8 業種	8 業種
 小雨(低調)	3 業種	3 業種	3 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

■4～6月期見通しのポイント

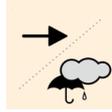
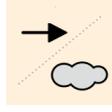
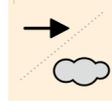
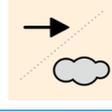
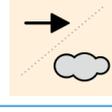
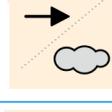
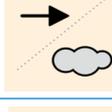
- 製造業、非製造業ともに天気マークに変化はない見通し。

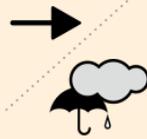
照会先
一般財団法人 長野経済研究所
調査部(担当: 桑井、須田)
TEL: 026-224-0501

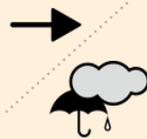


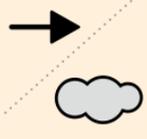
<産業別天気図一覧(12業種)>

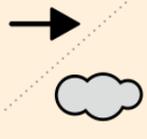
- 調査内容:業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間:2025年3月中旬～4月上旬
- 調査回答企業:県内主要企業12業種の110社

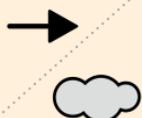
業種	前期 (24年10～12月期)	今期 (25年1～3月期)	来期 (25年4～6月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			

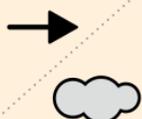
生産用機械	設備投資への慎重姿勢から自動車関連やIT関連を中心に受注は低調
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注のうち自動車向けは、バッテリー式電気自動車(BEV)などの完成車需要の伸び悩みから部品メーカーを中心に低水準だった。IT関連では、PC・スマートフォン向けや産業用向けなどの半導体需要の低迷が続き、受注は低調だった。今後も、設備投資への慎重姿勢が続き自動車関連、IT関連を中心に受注は低調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械の受注は、国内の自動車関連では部品メーカーを中心に慎重な投資姿勢が続き低水準を見込む。海外は、中国向けや欧州向けは景気減速の影響から低迷する見込み。また、米国向けは底堅いとみられるが、輸入関税の引き上げから減少が懸念される。 ● 半導体製造装置の受注は、半導体需要が回復せず引き続き低調な見込み。

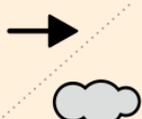
電子部品・デバイス	中国・欧州向けを中心に受注は低調な見込み
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は総じて低調だった。半導体製造装置向けなどの産業用やPC・スマートフォンなどのIT関連向けは、中国景気の停滞を背景に、受注は低調だった。また、車載用についても、欧州などでバッテリー式電気自動車(BEV)需要が低調なことから、受注は減少した。今後も、産業用やIT関連を中心に引き続き受注は低調に推移するとみられることから、在庫の調整局面が続き、生産も停滞する見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● IT関連やエアコン、冷蔵庫などの家電用は、中国や欧州など海外需要の弱さが続くほか、産業用も先行き不透明感から設備投資関連の受注は低調な見通し。 ● 車載用は、中国景気の停滞や欧州でのBEV需要の鈍化が続き、弱い動きが続く見込み。

自動車部品	中国向けは低調ながら、国内・北米向けを中心に受注は底堅い
<p>● 現況</p> 	<p>国内・北米の新車需要が底堅く、米国では輸入自動車への関税引き上げ前の駆け込みもあって、自動車部品の受注は堅調だった。今後は、国内・北米向けを中心に受注は底堅い見通しだが、米国による輸入関税の引き上げの影響が懸念される。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内・北米向けは、ハイブリッド車(HV)を中心に受注は底堅い見通しだが、米国による輸入関税の引き上げから、先行き不透明感が急速に強まっており、影響が懸念される。 ● 中国向けは、現地メーカーとの競争激化を背景に日系完成車メーカーの新車販売が低迷しており、今後も受注は低調な見通し。また、東南アジア向けは、中国EVメーカーの安値攻勢により日系完成車メーカーが販売シェアを低下させているため、低調な見込み。

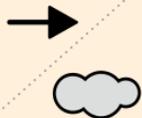
飲料製造	宿泊、外食を中心に飲料需要は底堅い見通し
<p>● 現況</p> 	<p>観光やビジネスでの人の移動が活発になり、宿泊・飲食店などの利用機会が増え、飲料需要は堅調だった。今後もインバウンドを含め人の移動が見込まれ、需要は底堅い見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果汁飲料などの清涼飲料は、国産リンゴなどの不作から原料が不足しており、生産量の低下が見込まれる。ただ、国産原料を用いた飲料の需要は堅調なことに加えて、製品価格の引き上げも貢献し、売り上げは前年並みとなる見通し。 ● 清酒・ワインなどのアルコール飲料は、観光やビジネスでの人の移動が活発になり、宿泊や外食での需要は底堅いとみられる。一方家庭での需要は、物価高による節約志向の高まりから弱含む見通し。

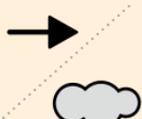
食料品製造	需要は総じて堅調だが、コスト増が利益を下押し
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用需要は、消費者の節約志向の高まりによりやや鈍化した。一方業務用需要は、観光やビジネスなどで人の動きが活発化し、外食を中心に堅調だった。今後業務用需要は、観光やビジネスでの外食利用の増加を背景に総じて堅調だが、原材料価格の上昇や電気料金への補助金終了に伴うコスト増などが利益を下押しする見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 味噌などの調味料は、糀の主原料となるコメなどの原材料価格上昇が影響し、利益は減少する見込み。 ● 乾燥食品、ソースなどは、宿泊施設や飲食店を中心に需要は堅調な見込み。 ● 加工肉、弁当などは、製品価格の上昇により需要は弱含む見通し。

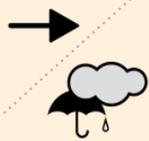
機械器具卸	機械需要は低調も、建設・電設資材の需要は順調
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、自動車関連で設備投資を控える動きが続いたほか、IT関連では半導体需要の低迷が続き、総じて低調だった。一方、建設・電設資材の需要は商業施設の新設工事など民間工事を中心に安定した工事量があり順調だった。今後も機械需要は低調が続くとみられる一方、建設・電設資材の需要は順調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作機械などの機械需要や制御機器などのFA機器の需要は、自動車関連を中心に投資への慎重姿勢が続き低水準となる見込み。切削用工具類や金属板などの消耗品受注は、製造業の生産水準がやや低下するとみられ、減少する見通し。 ● 建設・電設資材の取扱量は、建築工事量が堅調に推移するとみられ、順調な見込み。

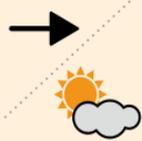
大型小売	販売価格の引き上げ等から売り上げは堅調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>コメなど食料品の価格高騰を受けて、消費者の購入単価は上昇しており、売り上げは堅調だった。一方で、このところの人件費の増加などから、利益面は幾分悪化している。今後も、人件費等の増加が見込まれるものの、消費者の底堅い内食需要が見込まれる中、食料品を中心に販売価格の引き上げが続くことから、売り上げは堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 百貨店は、節約志向の強まりから食料品や衣料品は低調なものの、靴・バックなどの身の回り品や催事が堅調に推移する見込みから、全体としては底堅い見込み。 ● スーパーは、コメや生鮮食品の価格高騰から消費者の買い上げ点数は減少しているものの、販売価格が上昇する中で食料品を中心に売り上げは増加する見込み。

自動車販売	強い買い替え需要を背景に堅調さを維持する見通し
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、一部国内完成車メーカーで遅れていた新安全・環境規制への対応が進んだことから、生産・出荷が正常化し、持ち直しの動きがみられた。また、中古車販売や輸入車販売も底堅く推移した。今後も消費者の自動車購入意欲は強く、新車販売、中古車販売、輸入車販売いずれも底堅い動きが続くとみられる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新車販売は、買い替え需要が続き、堅調に推移する見込み。 ● 中古車販売は、新車販売の増加に伴う下取り車の増加で商品在庫が充実するとともに、消費者の買い替え需要も堅調なことから、底堅い見通し。 ● 輸入車販売は、人気車種のモデルチェンジにより、底堅く推移する見込み。

公共工事	防災・減災関連の河川・治水工事などにより工事量は堅調
<p>● 現況</p> 	<p>三遠南信自動車道関連事業や公共施設の改修工事などにより、堅調な工事量となった。今後も防災・減災を目的とする河川・治山工事や道路のメンテナンス工事なども見込まれ、工事量は底堅い水準を維持する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国では、三遠南信自動車道関連事業のほか河川や山間部の防災・減災工事などにより、底堅い工事量が見込まれる。 ● 県では、河川工事や治山工事に加え、道路のメンテナンス工事などにより、堅調な工事量が見込まれる。 ● 市町村では、学校等の公共施設の改修工事などを中心に、安定した工事量が見込まれる。

民間工事	企業の建設投資を中心に安定した工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、製造業の工場建設などを中心に安定した工事量となった。新築住宅は、分譲マンションなどの需要は底堅いものの、資材価格の高止まりによる建設コスト増加などの影響から注文住宅が減少し、総じて着工戸数は低調だった。今後も住宅着工は低調なもの、民間企業の建設投資は底堅く、全体では安定的な工事量を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 民間企業の建設投資は、製造業の工場建設や社屋・倉庫の新增設などを中心に、安定した工事量となる見込み。 ● 住宅関連は、分譲マンションなどの需要は堅調だが、建築コスト高の影響により、注文住宅需要の減少が続き、着工戸数は引き続き低調な見込み。

貨物	工業製品を中心に貨物量は総じて低調な動き
<p>● 現況</p> 	<p>工業製品は、中国など海外向けの需要鈍化が続いて弱い荷動きとなり、食品・雑貨類の貨物量も商品値上げを背景とした消費者の買い控えの影響により低調だった。また、1月に政府のガソリン補助金がさらに縮小されたことからガソリン価格が高止まりし、利益を圧迫した。今後、工業製品は引き続き海外向けが弱含むほか、米国による輸入関税引き上げによる輸出品などの荷動きへの影響も懸念され、貨物量は総じて低調な動きが続く見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工業製品は、生産用機械や電子部品で中国など海外需要の鈍化が続くほか、自動車部品も先行きの不透明感があり、関連部材や輸出品などの荷動きは低調な見通し。 ● 食品や雑貨類は、商品値上げの影響などにより弱い荷動きが続くとみられる。

観光	大型連休を中心に引き続き順調な利用を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>スキー場を中心に旺盛なインバウンド需要がみられ、旅客・宿泊とも利用者数は増加した。ただ、燃料費を中心にコストが上昇し、利益を圧迫した。今後は、春の行楽シーズンを迎えるが、大型連休を中心に予約は堅調で、旅客・宿泊とも花見や山岳観光などを中心に順調な利用が見込まれる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 旅客は、行楽シーズンを迎え貸切バスや高速バスの観光利用が堅調に推移する見通し。ただ、人手不足による供給制約から需要の取りこぼしが懸念される。 ● 宿泊施設は、大型連休を中心とした国内客の利用増や、旺盛なインバウンド需要が見込まれ、利用者数は順調に推移する見込み。